

やさしい日本語で生活情報を

グループ「みらい」

1 なぜ、「やさしい日本語で生活情報を」なのか

1990年代中ごろから日本語教室などで、「学校からのお便りが読めない」「幼稚園の募集がいつからかわからない。機会を逃してしまうのではないか」など困っていたり、不安を感じている日本語を母語としない人の声を聞くようになりました。また役所からの封書を「どうせわからないから」と封を切らない人に何人も出会いました。正確な情報が手に入れば、自分で問題解決できる人たちです。

「わかりやすい日本語で情報を届けよう」とグループ「みらい」（前身「ともだち」）は、次の理由から2001年からやさしい日本語で生活情報を提供する活動を続けています。

- ・暮らしの中で必要・役立つ情報のうち、多言語に翻訳されるものは限定される。
- ・多言語翻訳の対象にならない言語を母語とする人も多数暮らしている。
- ・日本で暮らすには、できれば日本語で情報を得るのが効率的である。

それらの現実もありますが、取り組みの原動力になる「願い」と「ねらい」は大きく2つあります。

①「わかりそうだ、読んでみよう」

と思える文面。読んでわかればその情報をどのように活用するかは自分で決めることができます。それを「やってみよう」につなげてほしい。

またいくつも読んでいくうちに、よく出る漢字や言葉に慣れ、生活のためのサービス、地域のしくみやルールなどの知識を増やして行ってほしい。

②「わからない、聞いてみよう」

外国人がやさしい日本語で説明されたある手続きについてもっと知りたい、あるサービスを受けたいと思ったとき、近所の人や役所の人にそれが書いてある紙を見せれば、尋ねられた人は誰にきいたらいいか教えてあげたり、当人の事情に則した説明ができるかもしれません。それが外国語、たとえばポルトガル語で書かれたものであったらその人は日本人に尋ねてみようと思わないかもしれません。

やさしい日本語の情報が、外国人と地域の人がコミュニケーションをするきっかけに、外国人が地域に溶け込んでゆくためのかけはしになってほしい。

やさしい日本語による情報提供の 1 つが広報誌 月刊『よこはま・横浜』（(公財)横浜市国際交流協会 (YOKE) 発行の多言語情報誌の 1 つ) です。A4 サイズ 4 ページの前半を教育・子育て、健康、相談窓口紹介などの特集、後半を横浜市の広報から抜粋した情報で構成しています。記事の作成・編集作業を通じて定まってきたやさしい日本語の情報の作り方を紹介します。

2 やさしい日本語による情報作成の方針とルール（書き言葉による情報提供の場合）

① 要点を伝える

もともとの情報の中で 伝えるべき要点は何かを考え 絞り込みます。頭の中で箇条書きにする要領です。

② 主題や概要がわかるようにする

見出し あるいは 最初の一行で 何についての情報か 内容がわかるようにします。シンプルでわかりやすいイラストやピクトグラム（絵によるサイン）は 主題を伝えることができ、読む人が 必要な情報を探したり 関心のある内容であるかを判断するうえで 大きな助けになります。

③ 簡単にする

日常会話で耳にする 基本的で やさしいことば・やさしい漢字を使います。語彙と漢字は 日本語能力試験3・4級^{※1}（現行N4・N5レベル）^{※2}を目安にしています。

- ・ 漢字の上または下にルビをふります。
- ・ 一文を短く、主語と述語の関係が単純な文にします。
- ・ 修飾語も短く単純にします。

④ 見やすくする

- ・ 意味のまとまりで区切り、分かち書きにします。
- ・ ことばが二行に渡らないよう 後ろに空間ができてても行替えします。

⑤暮らしに必要・役立つ漢字やことばは とりいれる

見てわかるようになってほしいので難しくてもそのまま使います。ことばのあとに()で意味の説明をつけることがあります。

※ 『よこはま横浜』は (公財) 横浜市国際交流協会ホームページ

http://www.yoke.or.jp/4tagengo.johohasshin/4_lyoko_backnumber.html、

ユッカの会ホームページ <http://1st.geocities.jp/yukkanokai/yokoyoko.html>

にあります。

3 話すときに気をつけている点

日本語教室・学習支援教室・生活支援の場で活動している グループ「みらい」のメンバーが日本語を母語としない人と話すときに大切だと思うこと、気をつけている点をあげます。

<話し方>

○中心のなる言葉が聞き取りやすいように発音し、ひとまとまりの意味の切れ目で区切りながら話します。

○事務的な話では 漢語が多くなりがちですが、より日常会話で使う言葉に言い換えます。

○できるだけ、です・ます体で話します。

敬語「いらっしゃる」「～ れる・られる」「お ～ になる」「～ いただく」を使わなくても、

相手への敬意は 言い方・語気・視線などで伝えられます。

「ご不明な点があればお尋ねください」→「わからないとき 聞いてください」

「来日はいつですか」→「いつ 日本に来ましたか」

「横浜市在住ですか」→「横浜市に 住んでいますか」

「お子さんはいらっしゃいますか」→「子どもは いますか」

<コミュニケーション>

○相手の表情・反応を見ながら話します。相手がわからなかったかなと感じたら、ゆっくり繰り返したり(単に聞き取れなかった場合も多いです)、言い換えたりします。

○声だけでなく、視覚に訴えるものを併用します。

・説明する際に写真や絵・実物を見せる、イラストや図を書く。

- ・話の中心となるキーワードや用件・重要な数字を紙に書く。
- ・文書の必要部分をマーカーでハイライトしたりや下線を引くなどで示す。

<態度・姿勢>

- 相手に関心を持って、そのことが相手に伝わるように 視線やうなずきなどで示しながら話を聞きます。話す日本語は簡単でも 話の中身も簡単だとは限りません。
- 日本で暮らす外国の人は、少なくともその人が生まれた国以外の国で暮らしているという点で、生まれ育った国で暮らしている人とは違う経験を持っている。その経験を尊重します。

■参考サイト

- ※1 日本語読解学習支援システム リーディングチュウ太

<http://language.tiu.ac.jp/>

語彙と漢字の難易度を日本語能力試験のレベルで判定します。

- ※2 日本語能力試験 認定の目安 <http://www.jlpt.jp/about/levelsummary.html>

- ・ 弘前大学「やさしい日本語」作成のためのガイドライン

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/ejgaidorain.html>